

内閣参甲第八一號

昭和二十三年四月二十七日

内閣總理大臣 芦 田 均

参議院議長 松 平 恒 雄 殿

参議院議員小川友三君提出利根川下流対策に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

参議院議員小川友三君提出利根川下流対策に關する質問に対する答弁書

利根川の河口銚子附近と昨年九月堤防決潰の栗橋における水位差は低水位において平均十一メートル八八九高水位の差は十五メートル九三であります。又高潮の際の水位差は低水位において十一メートル六七六であります。

大出水の際における利根川の水は鳴戸海峡の水のように渦をまいているかどうかにつきましては昨年の洪水以來調査に適當な機会が未だないので調査していません。

更に東村附近より大放水路を急設することにつきましては目下治水調査会において検討中であります。が當局としては別途に閑宿において閘門の存口をもつと容易くしたらと云う考えもあります。

政府におきましては國家財政と睨み合せ出來得る限り早急に利根川の治水対策を解決致したいと努力している次第であります。